

はじめに

「語学はスポーツである」と言われることがあります。たとえば、テニスの初級者がボレーがうまくなりたいと思ったとします。そういう場合、まず構え方、足の運び方、ラケットの出し方などの基本動作を教えてもらい頭を使って理解します。その後、球出しをしてもらって実際にボールを打ってみます。体で覚えるわけです。そして、ある程度ボレーがうまくなってきたとします。ところが数日経つと、教えてもらった打ち方を忘れてうまできなくなることがよくあります。そこで、もう一度基本動作をおさらいします。そして再び実際にボールを打ってみます。このようにして、初めは頭を使い、次に体を使ってボレーを身に付けていきます。

語学も同じです。ただし、本書を利用して、文法問題を解いてみようという受験生は、基本的な問題の大部分はクリアできるほどの力がある人たちでしょう。ですから、今必要なのは実際にボールをできるだけ多く打ってみること、つまりできるだけ多くの問題を解いてみることです。問題を解くことによって、自分の弱点、課題、あるいは抜けている知識、勘違いしていた事柄などがないかを見つけることです。

そのために、できるだけ速く解いて、できるだけ速く課題を見つけましょう。できれば本書は1回目を1～2週間以内でやり、もう1～2週間で初めにつまづいた問題を確認する作業を数回やれば万全だと思います。受験は要領です。「できる問題はさっとやっしまい、できない問題を要領よく押さえていく」ことが短時間で学習するコツと言えます。じっくり考えて納得のいくまで取り組むということも時には必要ですが、ほとんどの場合は、こだわらないことが大事です。こだわらずにどんどん先に進む。ただ、疑問点は明確にしておく。最後までやってから、初めに戻って見直す。その際に、初めに疑問に思ったところが自分で解決できることもよくあります。そういうつもりで、本書でどこを間違うかを発見して、そこを強化すれば実力は確実にアップします。

諸君の健闘を祈っております。

2020年3月吉日

編者記す

目 次

第1章	要注意の動詞の意味と語法	4
第2章	2語動詞・3語動詞など	8
第3章	動詞とその後に続く名詞(相当表現)	14
第4章	動詞と共に使われる前置詞	20
第5章	動詞や前置詞の後に続くさまざまな形	24
第6章	関係詞と接続詞	30
第7章	前置詞とそれと共に用いられる名詞(相当表現)	34
第8章	形容詞の後に続く前置詞や準動詞	40
第9章	形容詞・副詞	44
第10章	仮定法と直説法、助動詞・時制	50
第11章	代名詞と形容詞・副詞	58
第12章	語順・省略・同格その他	62
第13章	要注意の比較の表現	68
第14章	さまざまな名詞(相当表現)	72

第1章 要注意の動詞の意味と語法

問題 次の問いの ① ~ ⑭ に入れるのに最も適当なものを、それぞれ下の ① ~ ④ のうちから一つずつ選べ。 標準解答時間 4分

問1 A: Shall we leave for the party now?

B: Yes, we'd better hurry. It wouldn't ① to be late.

- ① do ② make
③ be too much ④ all right

問2 ②! When are we going to eat?

- ① I'm starve ② I'm starving
③ I starve ④ I starved

問3 When asked to come to the party, he ③.

- ① refined ② declined ③ inclined ④ confined

問4 He ④ at the age of 65 and went to live in a little cottage by the sea.

- ① retreated ② repelled ③ withdrew ④ retired

問5 The business has ⑤ gradually from a small shop twenty years ago to today's supermarket.

- ① imported ② expired ③ originated ④ expanded

問6 Tomorrow will be mainly sunny. There may be a few showers but these are not expected to ⑥ long.

- ① wait ② delay ③ last ④ lose

第1章 要注意の動詞の意味と語法

問1 ①

訳 A: さあパーティに出かけましょうか。

B: そうだね、急いだ方がいいな。遅れるのはまずいだろうから。

POINT will do 「間に合う・役立つ・適当である」

解説

- It wouldn't make to be late. とか It wouldn't be too much to be late. では意味不明の文となる。ゆえに、② make と③ be too much は消去できる。
- ④ all right は、be all right となっていればありうるが、be がないので④も消去できる。

【例】 Is it **all right** (for me) to use this ballpoint pen?

「このボールペンを使ってもいいですか。」

- **will do** 「間に合う・役立つ・適当である」とほぼ同じ意味で、would do もよく使われる。**It would not do to V** で、「～するのはふさわしくない・礼儀などに合わない」という意味。would not の代わりに、doesn't となることもある。

【例】 It **doesn't do** to be rude to your father.

「父親にえらそうな口のききかたをするのはよくない。」

問2 ②

訳 腹ペコだ。いつ食事をするの。

POINT be starving 「腹ペコである」

解説

- 動詞 starve は、「とても空腹である・飢え死にする」という意味である。ゆえに、① I'm starve という形はありえない。I'm starved 「おなかが減って死にそうだ」ならば言える。他動詞の starve が受動態で使われる場合である。
- ③ I starve も消去できる。現在時制を使うと、「私は(いつも)とても空腹である」という、時を超えた状況とか習慣的なことについて述べることになるからである。
- ④ I starved は過去形なので、本問ではやはり消去できる。正解は② **I'm starving**。「飢えて死にそうなくらい空腹である」という意味なので、本問の文意に最もよく合っている。これは、I'm starved. / I'm very hungry. と同じ意味である。

【例】 Apart from anything else I **was starving**.

「他の一切のことはともかく、私は死ぬほどお腹が空いていた。」